

研究タイトル：

ヴェネツィア共和国地方都市の交渉活動



| | | | |
|-----------------|---|---------|-------------------------------|
| 氏名： | 野村 雄紀 / NOMURA Yuki | E-mail： | yukinomura@tomakomai-ct.ac.jp |
| 職名： | 講師 | 学位： | 博士(文学)(神戸大学) |
| 所属学会・協会： | 日本西洋史学会、九州西洋史学会、神戸大学史学研究会 | | |
| キーワード： | イタリア、ヴェネツィア、近世史、財政史、地方自治、地方行政、ロビー活動、国際関係史 | | |
| 技術相談 提供可能技術： | 歴史学、歴史教育、文化財保護、地域歴史遺産の活用、イタリア語 | | |

研究内容：

近年、連邦的な体制の一例としての近世ヨーロッパ諸国における中央・地方間交渉の研究が活況を呈していますが、そうした研究の多くは当時の国家の多数を占めていた君主国を対象としています。これに対し、当時では数少ない共和政国家であり、中央と地方の双方に多様な利害を持つ交渉主体を抱えるヴェネツィア共和国の中央・地方間交渉を検討することで、中央対地方という二項対立的な図式ではない多面的な中央・地方間交渉の様相を提示することを目的として研究を進めてきました。

修士課程および博士課程在籍時には、ヴェネツィア中央政府が定期的に各地方都市に派遣する巡察官職の活動の分析を通して、ヴェネツィア共和国における中央・地方間交渉を中央政府の視点から検討する作業を行ってきました。特に、従来はヴェネツィア共和国の衰退の時代として等閑視されてきた 17 世紀前半に研究対象を設定し、同世紀以降残存数が多くなる書簡史料を体系的に分析することで、巡察官職を介した中央・地方間交渉の様相を実証的に分析し、各地の諸集団の相反する要請と中央の要求が調整されながら統治制度の改革が展開していく過程を解明しました。

そして、以上の研究の中で、中央政府内の権力争いから有利な決定を引き出すために、地方都市の都市参事会が活発に中央諸機関へと交渉を行っていたことが判明し、地方都市の自律的な交渉活動の分析から共和政体に特有の中央権力の多元性を解明できる可能性が開けてきました。そこで今後は、地方都市の視点から中央・地方間交渉を捉え直す作業を進めていきたいと考えています。具体的には、地方都市が首都ヴェネツィアに派遣していた常駐大使の活動を手掛かりに、常駐大使による多様な利害の調整の仕方や中央・地方の人々が常駐大使を介した交渉に見出していた利用価値について検討し、中央・地方の双方における権力の多元性が中央・地方間交渉に与えていた特徴を炙り出すことを目指します。

また、地方都市の交渉活動を分析していく過程で、地方都市の交渉活動がヴェネツィア中央政府だけではなく外国の中央政府や地方都市に対しても日常的に行われていたことが浮かび上がってきました。そのため、上記のヴェネツィア共和国内の中央・地方間交渉の研究と並行して、地方都市が国境を越えて近隣地域の君主や中央政府、地方都市と行っていた交渉活動の研究も進めています。具体的には、共和国西端の地方都市ブレシアの統治官や都市参事会がミラノ公国やマントヴァ公国の諸主体と行っていた交渉活動を分析し、彼らの日々の交渉活動が国境を跨ぐ地域の治安維持において重要な役割を担っており、各国政府の意思決定や国家間外交にも大きく影響を与えていたことを解明しつつあります。

提供可能な設備・機器：

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |